

ボランティアの心

傘寿を超えて喜んで貰えるのがうれしくて

K S Cに入学したのは1994年の9月でした。その4ヶ月後、神戸の街は、あの震災に見舞われK S Cも休校に。当時所属していた西区バレーボール連盟の仲間と避難所で炊き出しを始めました。レクリエーション指導者クラブの一員として、被災者の方々のストレスや運動不足を解消していただこうと、用具や景品を持参して遊んでもらう活動も行いました。あの時は、ただ「何かせずにはられない」という思い、避難所の方々が一日も早く元の生活に戻れるようにと祈る一心で通い続けたのです。それが、ボランティアとの出会いでした。K S Cが4月に再開されると、私は「コーロK S C」の皆さんと障害者や老人の介護施設でのボランティア活動を始めました。

卒業後も、宮城さん達と明生園へ、また「コーロむつみ」「ト音記号」「フリーハワイアンズ」の仲間との施設訪問や、小学校での昔遊びの伝承指導、そして個人的にもいくつかの福祉施設を訪れる活動を続け、気が付けばもう20年。「ああ楽しかった、また来てね」の笑顔に励まされながら、



傘寿を超えた今もボランティアを続けてます。けれど、その活動は「ボランティアをするぞ!」などと大きく構えたものではありません。「歌や遊びなど自分の得意分野を生かして一緒に楽しむ」、そんな思いです。

施設訪問のプログラムは、まず季節の歌や懐かしい歌から始まります。歌は過去の記憶を呼び覚まし、安らぎを与えてくれるからです。例えば

「七夕さま」を歌えば笹飾りが浮かび、「短冊に筆で願い事を書いたね」「里芋の葉の雫を集めて墨をすったよ」など、次々と蘇る故郷の風景や風習を語り合うにつれ、若いころに戻ったように生き生きとした表情を見せてくれます。次に、手遊び・ボール遊びなどを楽しみ、最後に手品を

披露して大きな拍手と笑顔をいただいたところで、「次回も元気でお会いしましょう」と約束をして終わります。

振り返ってみれば、現役時代は子供相手の仕事を30年、レクリエーション指導者になって22年。結局、私は「誰かに喜んでもらうこと」が単純にうれしいのです。これからも経験を活かし、いくらからでも社会に還元できるよう努めたいと思います。11月15日の「神戸マラソン」では、今年も警備員として街のどこかに立っていることでしょう。

(門脇 淳子・福2期 明生園)

夏休みの工作が出来た!

8月9日に夏休み工作塾がグループわ ところへ市民福祉振興協会との共催で、しあわせの村の研修館のホールと大会議室で開かれ、400人を超す親子連れの熱気と歓声で溢れました。グループわ は、7グループと本部からスタッフ100人が出て、子供たちにアドバイスをしたり、手伝ったりして、大忙しの日でした。

Aブースは木工グループで、動物、車、登り人形などを、ゴシゴシと木をきり、トントンと釘打ちでにぎやかです。Bブースではむかしあそび研究会の折り染めを使用したウチワと小物入れの作成にトライしています。ケナフの会の押し花絵葉書・葉の作成に真剣です。里山和楽会はドングリや小枝を使ったネイチャークラフト作



り、個性的な作品となっていました。Cブースでは、里山グループのつる細工でリース制作を行っており、親子でトライしています。

花実の森PJでは木片を焼いて絵を描く

バーニングアートです。長時間頑張っていました。絵手紙グループでも、女の子が挑戦していました。むかしあそび研究会の竹細工は器械体操人形で、親子と一緒に制作していました。子どもたちは各ブースより1作品、合計3作品を作成して、完成した作品を大事に持って、自慢そうな顔、満足した顔。その子どもたちの笑顔に手伝ったスタッフも満足そうでした。

(広報 岡本紘一)



ネイチャークラフト